



2026年3月期

決算補足説明資料

カメイ株式会社

東証プライム 8037

01 2026年3月期 決算概要

KAMEI





売上高 : 583,078百万円 (前期比 +1.5%) 期初予想比 : 99.5% 過去最高を更新 (3期連続)
営業利益 : 16,975百万円 (前期比 +6.7%) 期初予想比 : 108.1% 過去最高を更新 (5期連続)

■ 事業動向

売上高：自動車関連セグメント、食料セグメントの売上高伸長が寄与し、増収を達成

営業利益：エネルギーセグメントは中東情勢悪化で原油価格が急騰、供給先行き不安の発生により石油販売等が増益
自動車関連セグメント、食料セグメントも増益
海外・貿易セグメント、ファーマシーセグメントは減益

■ トピックス

【増配】 期末配当を65円/株へ増配し、年間配当は115円/株 (11期連続増配)

【株主優待】 2026年3月時点で100株以上保有する株主様向けに新設 (P.17参照)

【新規事業①】 次世代アグリ事業をスタート (P.18参照)

【新規事業②】 百年ソーラー東北事業をスタート (P.18参照)



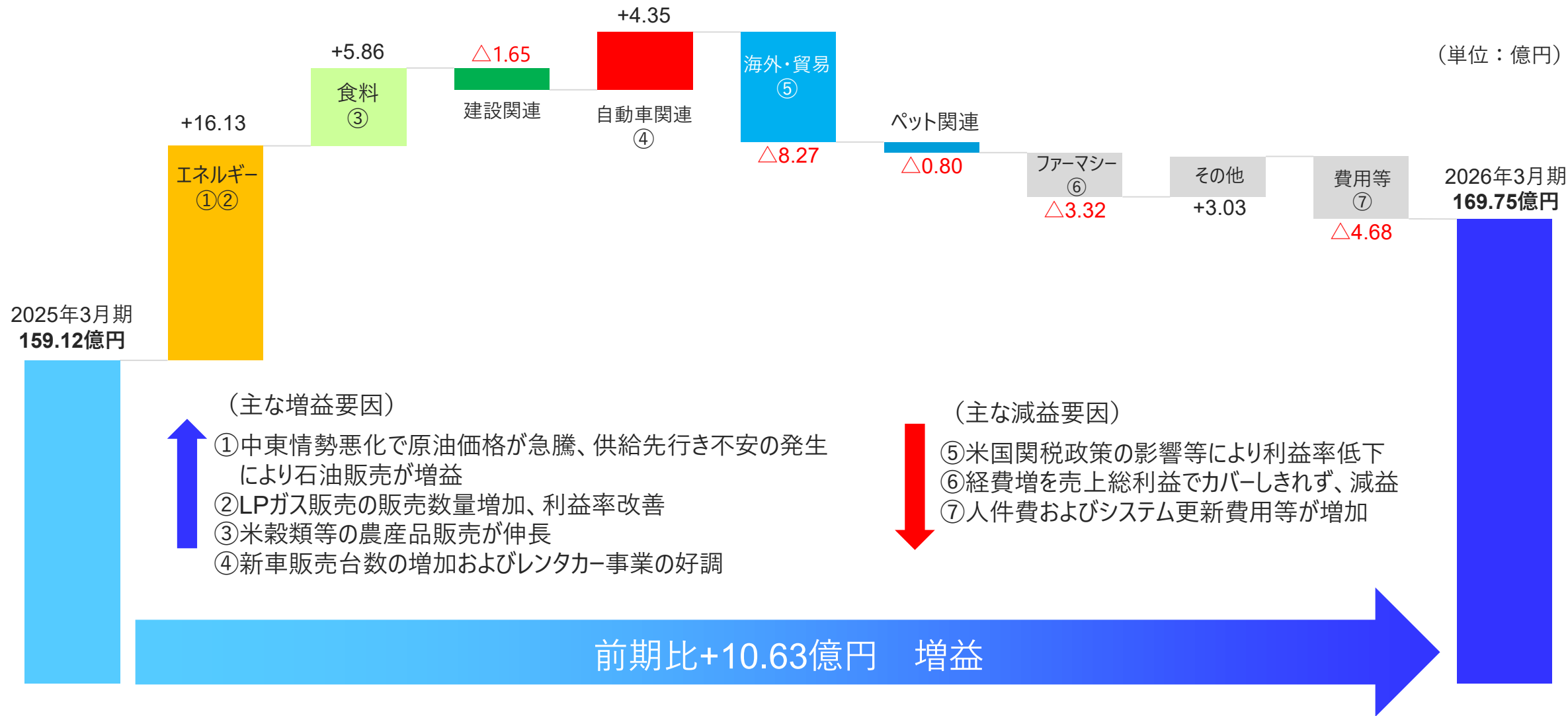
■ 売上高583,078百万円（前期比+1.5%）、営業利益16,975百万円（前期比+6.7%）

■ 収益性も改善（営業利益率2.8%⇒2.9%、経常利益率3.1%⇒3.2%）

	2025年3月期	対売上 比率 (%)	期初予想 (2025年5月公表)	2026年3月期	対売上 比率 (%)	前期比 (%)	金額差異	期初予想比 (%)
(単位：百万円)								
売上高	574,281	—	586,300	583,078	—	+1.5	+8,797	△0.5
売上総利益	93,037	16.2	—	99,877	17.1	+7.4	+6,840	—
販売費及び 一般管理費	77,125	13.4	—	82,901	14.2	+7.5	+5,776	—
営業利益	15,912	2.8	15,710	16,975	2.9	+6.7	+1,063	+8.1
経常利益	17,746	3.1	16,950	18,655	3.2	+5.1	+909	+10.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,690	1.9	11,000	11,900	2.0	+11.3	+1,210	+8.2



■ エネルギー、食料、自動車関連セグメントが増益。海外・貿易、ファーマシーセグメントが減益。



各報告セグメントの動向：売上高、利益ともに過去最高を更新



単位：百万円		2025年3月期	2026年3月期		前期比	期初予想比	要因（* 期初予想比を含む）
			期初予想	実績			
合計	売上高	574,281	586,300	583,078	+8,797	△3,222	主に食料、自動車関連が伸び、過去最高を更新 エネルギー、食料、自動車関連がけん引し、過去最高を更新
	セグメント利益**	15,912	15,710	16,975	+1,063	+1,265	
エネルギー	売上高	282,681	285,200	279,608	△3,073	△5,592	気温が前年比高めに推移したこと等により、販売数量が減少 中東情勢悪化で原油価格が急騰、供給先行き不安の発生で石油販売等が増益
	セグメント利益**	5,843	—	7,456	+1,613	—	
食料	売上高	36,679	38,600	39,141	+2,462	+541	米穀類を中心とする農産品の市況高騰により、売上高が伸長 上記の他、食品・酒類販売での価格改定効果で利益率改善
	セグメント利益**	85	—	671	+586	—	
建設関連	売上高	48,031	48,700	48,376	+345	△324	鉄骨工事等の売上高が堅調に推移し増収も、期初予想には届かず 経費増を売上総利益でカバーしきれず、減益
	セグメント利益**	1,413	—	1,248	△165	—	
自動車関連	売上高	73,584	78,000	80,258	+6,674	+2,258	新車販売台数の増加およびレンタカー事業の好調により増収・増益
	セグメント利益**	4,547	—	4,982	+435	—	
海外・貿易	売上高	89,948	89,100	91,164	+1,216	+2,064	既存3社の連結子会社化による増収、及び米国のインフレにより売上高は 伸長するも、米国関税政策の影響等により減益
	セグメント利益**	4,986	—	4,159	△827	—	
ペット関連	売上高	14,311	16,000	14,475	+164	△1,525	売上高は前年を上回るも、経費増により減益
	セグメント利益**	204	—	124	△80	—	
ファーマシー	売上高	19,861	20,700	20,395	+534	△305	処方箋応需枚数は低迷したが、処方箋単価の上昇により増収 人件費等の経費増を売上総利益でカバーしきれず、減益
	セグメント利益**	244	—	△88	△332	—	
その他*	売上高	9,182	10,000	9,658	+476	△342	各事業とも概ね順調に推移し、増収・増益
	セグメント利益**	1,186	—	1,489	+303	—	
全社費用		△2,599	—	△3,067	△468	—	人件費およびシステム更新費用等が増加

* 情報機器の販売、運送業、不動産賃貸業等 **セグメント利益又は損失は調整額控除前

貸借対照表：売上債権、有利子負債が減少 自己資本比率は49.3%→52.4%へ上昇



- 自動車事業の売掛金の回収などにより、売上債権は前期末から減少
- 有形固定資産は海外・貿易事業の店舗新改築、新規連結子会社の編入により増加
- 有利子負債は返済が進み減少

資産の部

(単位：百万円)	2025年3月末	2026年3月末	前期末増減
流動資産	187,829	188,244	+415
現金及び預金	62,262	68,571	+6,309
受取手形、売掛金 及び契約資産	76,035	70,286	△5,749
商品及び製品	32,007	33,360	+1,353
固定資産	132,881	142,816	+9,935
有形固定資産	98,193	106,227	+8,034
無形固定資産	5,977	4,870	△1,107
投資その他の資産	28,710	31,717	+3,007
資産合計	320,710	331,061	+10,351

負債・純資産の部

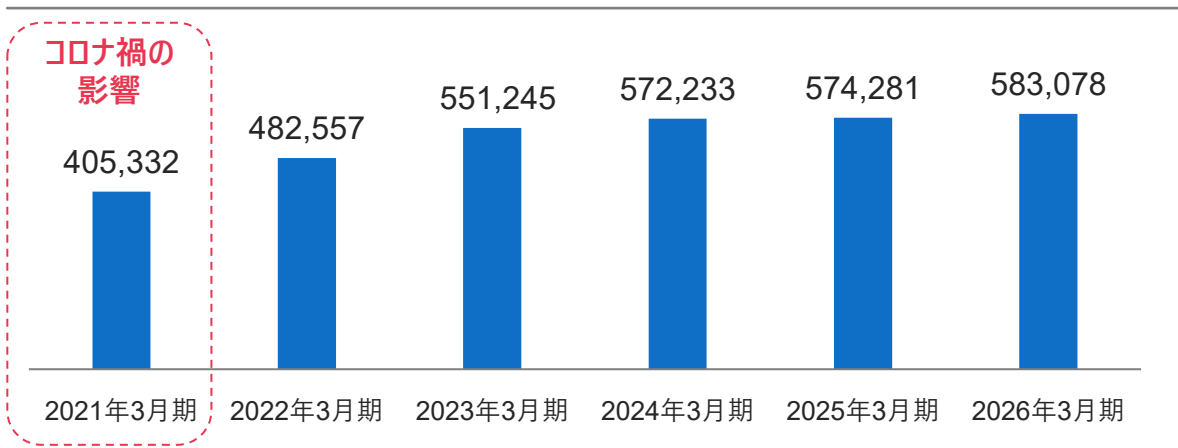
(単位：百万円)	2025年3月末	2026年3月末	前期末増減
流動負債	122,319	116,310	△6,009
支払手形及び買掛金	56,843	54,741	△2,102
短期借入金	37,690	32,611	△5,079
固定負債	31,927	36,402	+4,475
長期借入金	5,499	4,384	△1,115
純資産	166,463	178,348	+11,885
株主資本	139,839	152,809	+12,970
その他の包括利益累計額	18,280	20,736	+2,456
負債純資産合計	320,710	331,061	+10,351

■ 有利子負債の返済や定期預金の増加等があったものの、営業キャッシュフローの増加、投資有価証券の売却などにより、現金等の残高は期初対比で2,723百万円増加

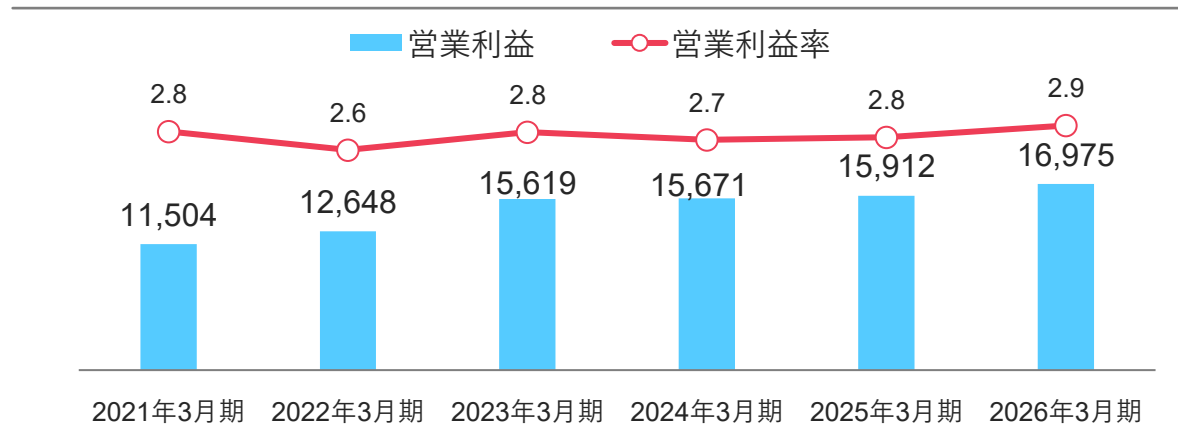
(単位：百万円)	2025年3月期	2026年3月期	増減	主な要因
現金及び現金同等物の期首残高	50,864	56,177	+5,313	
営業活動によるキャッシュ・フロー	38,362	29,690	△8,672	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前期は期初に自動車販売の売上債権残高が膨らんだが、今期は平準化しキャッシュの回収も減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,616	△13,101	+515	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店舗等の固定資産や定期預金に対する支出 ・ 投資有価証券の売却
フリー・キャッシュ・フロー	24,746	16,589	△8,157	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,272	△14,389	+6,883	<ul style="list-style-type: none"> ・ 借入金返済額の減少 ・ 前期自己株式の取得の差分（54.7億円）等
現金及び現金同等物の期末残高	56,177	58,900	+2,723	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連結の範囲の変更に伴う増減額（4.57億円）を含む



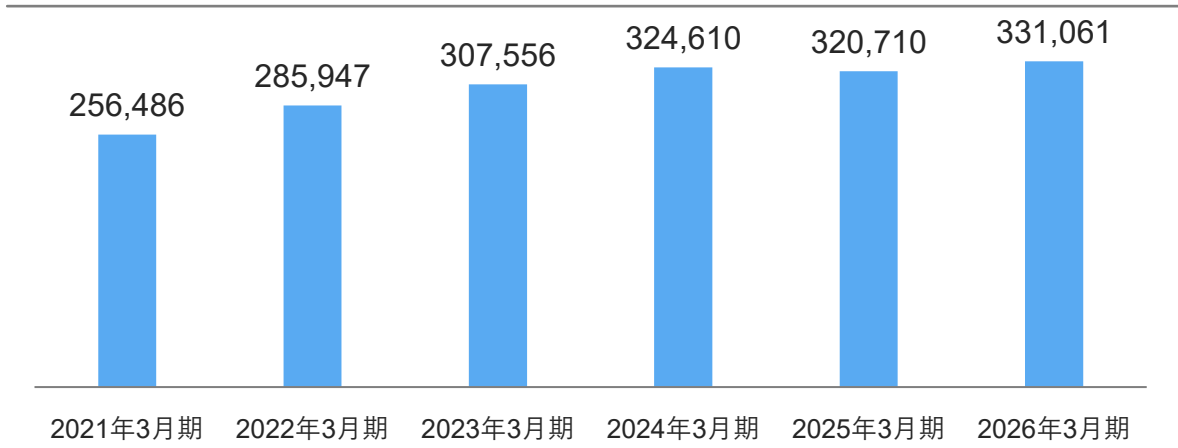
売上高(百万円)



営業利益(百万円,%)

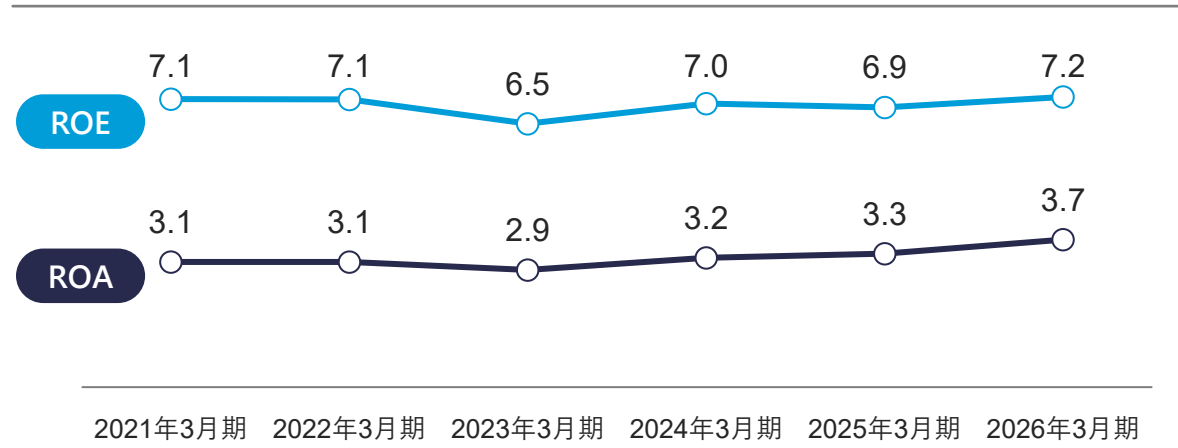


総資産(百万円)



ROEとROA(%)

資本効率性の改善が課題



02 2027年3月期 通期見通し

KAMEI



- 上期は、増収（前期比 +3.7%）増益（前期比 +1.0%）を見込む
- エネルギーが売上高・利益ともに業績をけん引する見込み
- 利益率は悪化の見込みだが、原油価格高騰による影響を除くと、前年並みの利益率を維持

(単位：百万円)	2026年3月期	対売上比率 (%)	2027年3月期	対売上比率 (%)	前期比 (%)	金額差異
売上高	268,309	—	278,200	—	+ 3.7	+9,891
営業利益	7,111	2.7	7,180	2.6	+ 1.0	+ 69
経常利益	7,681	2.9	7,880	2.8	+ 2.6	+ 199
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,746	1.8	4,780	1.7	+ 0.7	+ 34

※イラン情勢等の変化により、修正が必要となった場合には速やかに開示いたします

- 通期は、増収（前期比 +5.5%）減益（前期比 △7.5%）を見込む
- イラン情勢の不透明感等により、エネルギーは増収確保も減益を予想
- 利益率は、前年下期の高収益の反動により、当期は若干低下する見込み

(単位：百万円)	2026年3月期	対売上比率 (%)	2027年3月期	対売上比率 (%)	前期比 (%)	金額差異
売上高	583,078	—	615,000	—	+ 5.5	+31,922
営業利益	16,975	2.9	15,700	2.6	△7.5	△1,275
経常利益	18,655	3.2	17,500	2.8	△6.2	△1,155
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,900	2.0	11,000	1.8	△7.6	△900

※イラン情勢等の変化により、修正が必要となった場合には速やかに開示いたします

(単位：百万円)	2026年3月期 (実績)	2027年3月期 (見通し)	前期比 (%)	要因
エネルギー	279,608	299,500	+7.1	販売数量は構造的要因により減少も、原油価格高騰により販売単価が上昇し、増収見込み。燃料油への補助金は継続する前提。
食料	39,141	38,600	△1.4	コスト上昇分の価格転嫁が進む一方、米穀類の価格下落と販売数量伸び悩みにより、減収の見通し。
建設関連	48,376	56,000	+15.8	工事受注の回復により、増収トレンドへ回帰。
自動車関連	80,258	83,600	+4.2	新車販売は堅調見込みだが、イラン情勢の影響を注視。レンタカー事業は、レジャー需要等により好調見込み。
海外・貿易	91,164	92,500	+1.5	足元の円安基調により為替の影響は好転する一方、米国関税政策の業績への影響は今期も続く。
ペット関連	14,475	14,800	+2.2	ペット・園芸とも売上高は堅調の見通し。
ファーマシー	20,395	20,000	△1.9	事業の筋肉質化（不採算店舗の整理）により、処方箋応需枚数が減少見込み。
その他*	9,658	10,000	+3.5	大きな減収要因は無し。

* 情報機器の販売、運送業、不動産賃貸業等



■ 報告セグメント利益の見通し：エネルギーは不透明なイラン情勢を背景に通期減益予想。

報告セグメント	評価とコメント	報告セグメント	評価とコメント
エネルギー	△ 上期は堅調も、イラン情勢で下期は減益予想	海外・貿易	△ 米国関税政策等とインフレにより収益性低下
食料	△ 米穀販売が市況悪化により減速	ペット関連	△ 経費増による減益見通し
建設関連	○ 受注高回復により増益トレンドへ	ファーマシー	△ 収益力改善に向け、事業構造改革を継続
自動車関連	○ 新車販売とレンタカー共に好調維持	その他	○ 各事業とも概ね順調

■ 為替の前提条件 1ドル = 155円（前期は 1ドル = 150円）

■ 原油価格の前提条件 ドバイ原油 = 100ドル/bbl（前期は 72ドル/bbl）

■ 増配を予定：年間 130円（中間 65円 + 期末 65円）（予定）

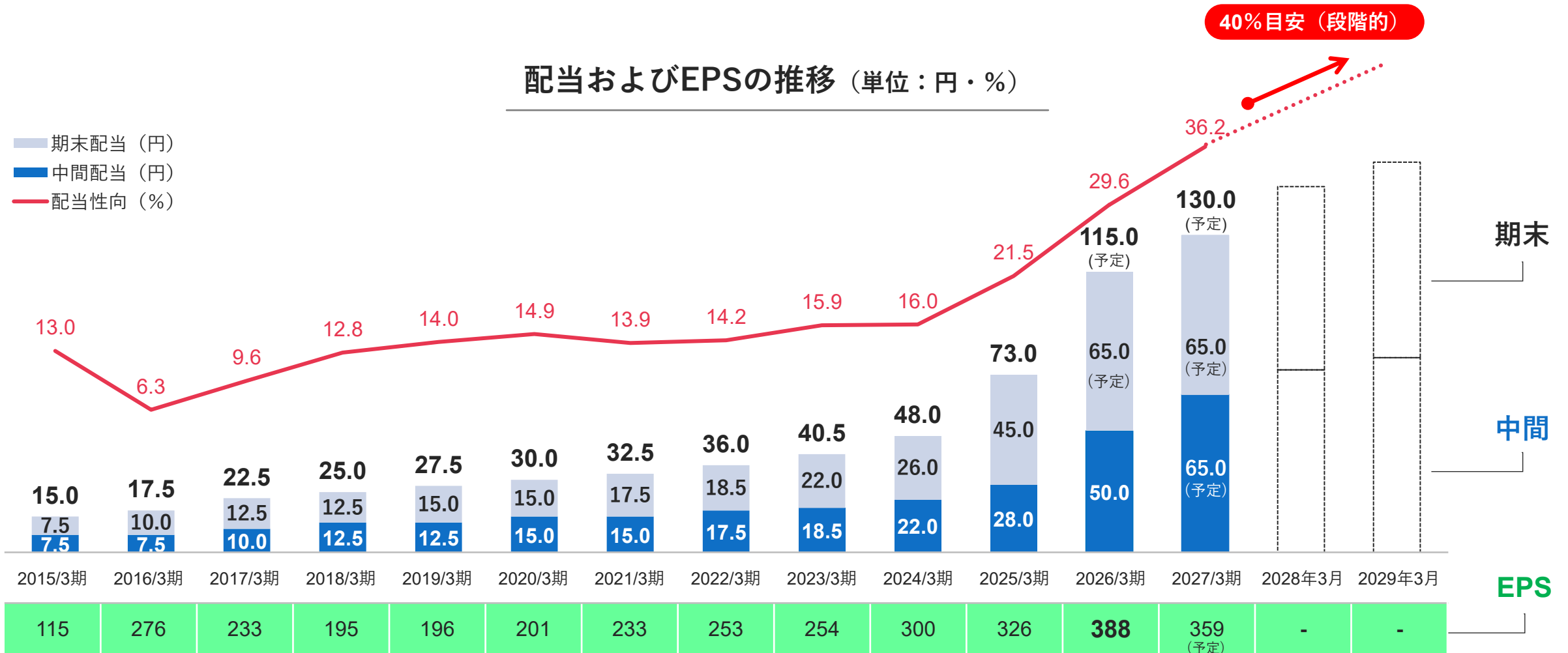
■ 上期：イラン情勢が引き続き不透明なことによる供給不安定

下期：原油高騰、円安が引き起こすインフレによる需要減退 をベースとした予想

- ① 「累進配当」と、② 「配当性向30%目安から段階的に40%目安への引き上げ」を基本とする
- 2027年3月期：年間130円/株（中間配当65円、期末配当65円）の予定（12期連続増配の見込み）

配当およびEPSの推移（単位：円・%）

■ 期末配当（円）
■ 中間配当（円）
— 配当性向（%）



03 2026年3月期
第4四半期
最新トピックス

KAMEI



■ より多くの皆様に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的として、株主優待制度を導入

・ 対象となる株主様

当社株式を**100株以上**、**1年以上継続**して保有されている株主様（※）

・ 株主優待の内容

保有株式数に応じ**当社オリジナルQUOカード** or **カタログギフト**進呈
 （カタログギフトは**宮城県の特産品**や寄付等から選択）

【宮城県産品を中心とした地元特産品】

（写真はイメージです）

保有株式数	優待品
100株以上 300株未満	500円相当分 QUOカード
300株以上 500株未満	3,000円相当分 カタログギフト or QUOカード
500株以上 1,000株未満	5,000円相当分 カタログギフト or QUOカード
1,000株以上	10,000円相当分 カタログギフト or QUOカード



（※）毎年3月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主様が対象。
 但し、初回基準日（2026年3月31日現在）の株主名簿に記載又は記録された100株以上の株式を保有する株主様は、初回に限り保有期間にかかわらず対象とする。



2026年2月

次世代アグリ事業をスタート (食料セグメント)

AIスマート農業技術を活用した持続的農業モデルを構築

省力化

農産物の産地化

高付加価値化

高齢化・担い手不足などの課題解決
若者でも取組める農業モデルを官民連携で構築



2026年3月

百年ソーラー東北事業をスタート (エネルギーセグメント)

東北エリアの中小型太陽光発電所を取得・集約
発電所の再生・効率化により、長期安定運用・グリーン電力確保

東北エリアの
カーボンニュートラル推進
エネルギー基盤強化



本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、既知及び未知のリスクや不確実性及びその他の要素を内包しており、これらの目標や予想の達成及び将来の業績を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。



カメイ株式会社

2026年5月

東証プライム

8037

